

Q-SYS Designer Version 6.0 Release Note

ソフトウェア要件

Q-SYS Designer は下記の OS での動作確認をしております。

- ・ Windows 7 Professional 64-bit
- ・ Windows 8.1 Professional 64-bit
- ・ Windows 10 Pro 64bit

※本バージョンより 32-bit OS はサポートされませんのでご注意ください。

Q-SYS Designer をインストールするためには下記のソフトウェアパッケージが必要です。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 (自動でインストールされます)
- ・ Microsoft .NET Framework 4.0 Client Profile (自動でインストールされます)
- ・ Microsoft .NET Framework 4.0 Extended (自動でインストールされます)
- ・ Microsoft Visual C++ 2010 Runtime (自動でインストールされます)
- ・ VLC Media Player (オプション / WAN Streaming コンポーネント使用の場合)

重要

アップグレードを実行する前に必ず以前のバージョンでバックアップファイルを作成してください。また以前のバージョンで作成したバックアップしたファイルは新しいバージョンで開かないでください。

- ・ Version 2.0 より前のバージョンからアップデートする場合は一度 Version 2.0 にアップデートします。
- ・ Version 3.3 より前のバージョンからアップデートする場合は一度 Version 3.3 にアップデートします。
- ・ Version 4.2 以降のバージョンを使用する場合は必ず Version 3.3 以降にアップデートされたファームウェアを使用しなければなりません。

新しいコンポーネントの追加

Q-SYS Designer 6.0 には多くの変更と追加があります。またこのリリースにアップグレードする際に注意が必要なコンポーネントもあります。現在の設計に大きな影響を与える可能性がありますのでアップグレードする前に必ずデザインファイルのバックアップを取ること、ソフトウェアを使用して理解した後アップグレードを実行してください。

Inventory Components

・ Core510i コンポーネント

新しい Core プロセッサの Core510i を追加しました。Core510i は Core を選択して表示される Properties から選択することが可能です。

Core510i は 8 枚の Type II カードスロット、16 系統の GPIO、RS232 を持っています。Q-LAN チャンネル数は 256 入力 256 出力使用可能です。

・ I/O 510i コンポーネント

新しい Core プロセッサの Core510i は” I/O 510i” を使用することで入出力拡張ユニットとしても使用することが可能です。Q-SYS I/O 510i は Core510i と同様のハードウェア構成をシステム内で使用可能です。Q-LAN チャンネル数は 128 入力 128 出力使用可能です。

・ I/O-8 Flex コンポーネント

新しい入出力拡張ユニット” I/O-8 FLEX” を追加しました。Q-SYS I/O-8 FLEX は 8 系統の入出力どちらにも設定可能なフレックスチャンネルと 8 系統の GPIO、Audio to USB Bridge、RS232 を備えたハーフラックサイズのハードウェアです。電源は PoE+もしくは外部パワーサプライから供給可能です。

・ TSC-47-G2 コンポーネント

Q-SYS TSC-47-G2 コンポーネントを追加しました。

Q-SYS TSC-47-G2 コンポーネントは UCI コントロールで TSC-47-G2 ハードウェアを使用する際に使用します。

Audio Components

・ 200ms Acoustic Echo Canceler コンポーネント

次世代の Q-SYS AES コンポーネントを追加しました。以前の AEC アルゴリズムを全て見直し、新しいコンポーネントとして追加されました。新しい AEC コンポーネントは以前の AEC コンポーネントと同時に使用することはできません。

Q-SYS Designer の新しい機能

USB Video Bridge

・ USB Video Bridge コンポーネント

1. 遠隔地にある Q-SYS PTZ IP カメラの遠隔制御を可能にするオプションを追加しました。ソフトコーデックが対応している場合にこの機能を使うことができます。
2. AV-to-USB ブリッジからビデオコンテンツの要求がない場合に自動的にプライバシーモードに設定するオプションが追加されました。

・ USB Video Bridge (Core) コンポーネント

1. Q-SYS カメラと Core110f の USB デバイスポートを使用して USB Video Bridge を使用した場合に IP Stream 2 (H. 264) をサポートしました。
2. Core110f の USB デバイスポートを使用して USB Video Bridge を使用したときに Q-LAN および AES67 の最大チャンネル数が 64 入力 64 出力に制限されます。(通常は 128 入力 128 出力)

Softphone

・ Softphone コンポーネント

1. ダイヤル文字列に 1 秒のソフトポーズを挿入するために”,” 記号のサポートを追加しました。(例えば 0336397800 とダイヤルした後に 1 秒間を空けたい場合には 0336397800,7801 とすれば 0336397800 と 7801 の間に 1 秒の間を設けます。)
2. ダイヤル文字列にハードポーズを挿入するために” ;” 記号のサポートを追加しました。(例えば 0336397800 とダイヤルした後に一度ダイヤルを止めたい場合は 0336397800;7801 とすれば 0336397800 と 7801 の間でハードポーズします。)
3. IVR (音声応答) と Conference Bridge のダイヤルインのナビゲートをサポートするためにハードポーズをトリガした後、定義済みの DTMF デジットを送信するために Softphone Controller に「Continue with …」コントロールを追加しました。

Media Stream Receiver

・ Media Stream Receiver コンポーネント

1. Atlona 社の OmniStream 111 と 112 トランスミッターをサポートしました。
2. WyreStorm 社の Network HD 100、200 と 400 シリーズをサポートしました。

新規または追加された LUA スクリプトの機能

・ HTTP Client

1. HTTP で応答ヘッダーを取得する機能を追加しました。
2. 新しく応答ヘッダーを含む HttpClient.Download を EventHandler テーブルに追加しました。
3. エミュレートモードから文書化されていないいくつかの LUA ライブラリと関数を削除しました。この削除された機能は将来のソフトウェアリリースで Core のランタイムエンジンからも削除されます。今まで作成した貴重な LUA スクリプトに関してはエミュレートモードでテストを行ない、これらの変更点を特定することを推奨します。

Q-SYS Configurator の新しい機能

Configurator

Q-SYS Configurator に Core510i を Core Processor モードと IO Frame モードのどちらで使用するか選択する機能が追加されました。

Q-SYS Administrator の新しい機能

Softphone Tab

1. パスワードにマスクをかけるようにしました。
2. トランスポート設定に TLS を追加しました。

BETA Version の機能

Q-SYS Designer BETA バージョンの追加点。これらのコンポーネントは開発途上になるため機能は変更される可能性があります。

- ・ Channel Group
- ・ SPL/L eq Meter
- ・ Timeline

Version 6.0.0 で発生する問題点

Core110f USB 3.0 Support

【問題点】

Core110f において AV-to-USB Bridge を使用する際に USB3.0 ケーブルを使用できません。

【回避策】

USB2.0 のケーブルを使用してください。USB3.0 のケーブルを使用しなければならない場合は PC 側で USB2.0 のポートを使用してください。

Remote Paging

【問題点】

リモートページングシナリオの Administrator Guest Permission 内の “External Control Protocol” を ”NO” にすると Status が ”Fault-Not Connected” になる。

【回避策】

Administrator Guest の ” External Control Protocol” を ” Yes” にする。

Network

【問題点】

TSC-3 は Core250i の LAN B/AUX から起動することが出来ません

【回避策】

TSC-3 は必ず LAN A ネットワークに接続する必要があります。LAN B/AUX ネットワークはサポートされていません

Core Redundancy - CobraNet

【問題点】

スタンバイ状態の Core の CobraNet カード (CCN32) は自動的に送受信を切り替える制御がされていません。CobraNet カード搭載 Core の 2 重化をペアとして使用する際に影響を与える可能性があります。

Core Redundancy - Clock Master

【問題点】

Core をリダンダントする場合プライマリ Core が最優先のクロックマスターになります。バックアップ Core は 2 番目の優先となります。プライマリ Core がロスした場合や再起動した場合は短いオーディオストリームのドロップアウトが発生します。

重要な変更点

Core110f の USB デバイスポートを USB-to-AV ブリッジで使用した場合に Q-LAN および AES67 で使用可能な音声チャンネルが 128 入力 128 出力から 64 入力 64 出力に制限されます。